
～壊し屋～ The BrakemanStory

蛇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

壊し屋 The Brakeman Story

【コード】

N0710P

【作者名】

蛇

【あらすじ】

どこかの町、どこかの廃墟、そこに壊し屋はいた。

作者が初めて真剣に書いた作品です。なんでもいいので感想をお願いします

グシヤ！

血が、肉が、骨が『壊され』辺りに飛び散る

「い、嫌だ。死にたくない！」

仲間が『壊された』男は顔に仲間の血しぶきをつけ怯えた様子を見せる

「勘違いするな『死ぬんじゃない』『壊れるんだ』」

「あ！ああー！」

グシヤ！

とある廃墟、そこにやたらビクビクした様子の男がいた。

男は格好からして学生だろうか？男は誰かを探しているのか、しき

りに辺りを見回している。

「おい」

「ひっ！」

不意に男に声が掛けられる。声を掛けられた男は急に声を掛けられ驚いたのか妙な声をあげる。

そして男は声がしたほうに顔をむける。そこにいたのは全身を黒のコートで包み、かなり真っ黒なサングラスをかけた男であった。その男の髪は血のように真っ赤にそまっていた。

「お前、壊し屋を探してるんだろ？」

「え？は、はいそうですけど、なんで知って……」

「一つ、ここにくるやつは廃墟マニアか肝試しをしにきたか、それか依頼人だから」

「二つ、お前のさっきからの態度」

「た、態度？」

「お前はやたらビクビクしながら辺りを見回していた。そんなことをするのは肝試しをしにきたやつか依頼人かのどちらかだ。だが今は肝試しの季節ではないし肝試しにきたわりにはお前一人だけしか見当たらないからな」

「あの、依頼人って……」

「ん？ああ依頼人てのはな、俺に壊しの依頼にきたやつらのことだ」

「じゃああなたが！」

「ああ俺こそが壊し屋、壊し屋 紅髪トロイヤだ。用件を言いな、金さえ払えばなんだって『壊して』やるさ。どんな物でも、どんな人でもな」

そう言つてトロイヤは暗闇の中でもわかるくらいニヤリと笑つた。

「なるほど、この男を『壊して』ほしいと……
そう言いながら男の渡してきた写真をながめる

「そいつの名前は山里やまさと 猛たけしそいつは僕の……僕の……！」

「ああ深くは語らなくていい。名前はわかつたから、あとはこつちで調べるからな」

「あ、はいわかりました。あ、あとこれお金です
そう言つて男はトロイヤに分厚い茶封筒を渡す

「ん、確かに。じゃあお前は帰りな」

「えっ？」

「言つたる？あとはこつちでやるつて。だからお前は帰りな」

「で、でも……」

「安心しろ、俺はつけた依頼は必ずやり遂げるからな。お前は家で成功の報告を待っていればいい」

そう言つてトロイヤは立ち上がりどこかに歩いていった。

「いつちやつた……」

数日後とあるBAR、そこにトロイヤともう一人女性がいた女性は中々整つた顔立ちをしており中々の美人であつた

「で、なにかわかつたか？ミーシャ」

ミーシャと呼ばれた女性はいくつかの資料をトロイヤに渡す

「これを見ればわかると思うけど結構なお金持ちみたいね。それと気に入つた女性を無理矢理自分の物にして飽きたら捨てるを結構繰り返してるわね、そのせいで結構怨まれてるわよこの子」

「なんだそれだけか」

「それだけって……毎度のことながらあなた、変わってるわよね」

「まあ、そうかもしれないな。俺は壊すことしかできないからな」
そう言っって「ロイヤはそのBARをでていった」

「猛坊ちやま、そろそろお休みになられては？」

「いいんだよ別に」

「ですが……」

「いっていつてるだろ！」

「……わかりました」

執事はそう言っって部屋をでていく

「ふん、あいつもうるさくなってきたしパパに頼んで解雇してもらおうかな。それに今の女も飽きてきたし新しい女を探すかな」
ガチャ

「ん？もういいって言った……」
そこに立っていたのは先程の執事ではなく紅い髪の男、トロイヤであつた

「な、なんだお前は！」

「壊し屋」

「こ、壊し屋！？おい誰かいないのか！侵入者だ！捕まえる！」

「いくら騒いでも無駄だよ、一時的にこの部屋の周りの音を『壊した』からいくら騒いでも外には聞こえないよ」

「こっ、壊した！？なにを言ってるんだお前は！？」

「別にきにすることはないよ、お前はここで『壊れる』んだからな」

「ひっ！逃げ……」

グシャ！

「……え？」

嫌な音とともに猛の足が『壊された』

「ひっ！ひー！痛い！痛いー！」

辺りに飛び散る血、粉々にされた骨、ぐちゃぐちゃに潰された肉、猛の足は完全に『壊された』

「逃げようとしたから足『壊させて』もらったよ」

「い、嫌だ！死ぬのは嫌だー！ー！」

「『死ぬんじゃない』お前は『壊れるんだ』」

「ひー！」

グシヤ！

猛は『壊された』

『昨夜未明〇〇市の山里 猛さんが殺されているのが発見されました』

「成功したんだ・・・」
男は一人呟いた

とある町の廃墟、そこに壊し屋はいる。あなたは彼になにを壊して
もらいますか？物か人か、心か命か、あなたはどうする？

(後書き)

感想をお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0710p/>

～壊し屋～ The BrakemanStory

2010年11月22日22時28分発行